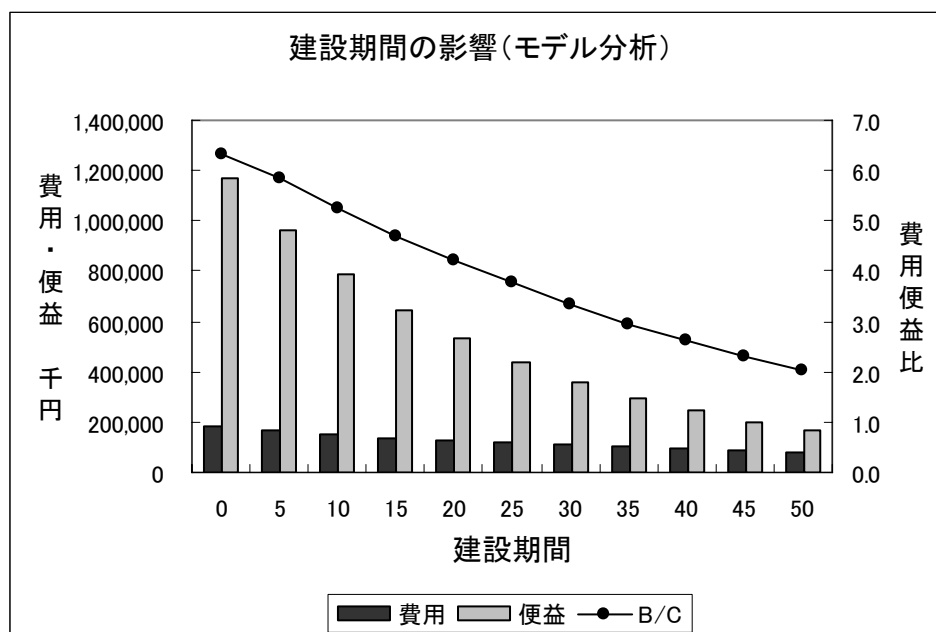


表Ⅲ-1.1 モデル分析の結果（モデル1）

建設期間 (n)	年次算定法			換算係数法
	費用(千円)	便益(千円)	B/C	B/C
0	184,034	1,167,614	6.34	6.32
5	164,303	959,624	5.84	6.32
10	150,135	788,700	5.25	6.32
15	137,576	648,211	4.71	6.32
20	126,441	532,720	4.21	6.32
25	116,505	437,828	3.76	6.32
30	107,727	359,838	3.34	6.32
35	99,812	295,818	2.96	6.32
40	92,818	243,100	2.62	6.32
45	86,478	199,784	2.31	6.32
50	80,789	164,186	2.03	6.32

(注)建設期間が長いほど、便益の割り引かれる割合が大きくなるので、現在価値化した場合、通常は費用便益比(B/C) が小さくなる。



図Ⅲ-1.3 モデル分析の結果（モデル1）